

【事業実績】

「ミュージアムが主導する持続可能な地域・観光モデルの開発」

事業実績

1. 文化資源を活用した地域事業の実践

(1) 地域催事の実践とまちカフェ（研究会）

① まちカフェ（研究会）・リレー講座等の実施

(ア) まちカフェ（まち歩きを含む）

三条

（総括）

三条通のまちづくりの手がかりとなるテーマで講師を招いてお話を伺う研究会として実施している。今年は全 8 回を開催し、三条通の地名や地理学的な見地から三条通の歴史を探った。また、三条通の特徴である近代建築を核としたまちづくりの推進のため、近代洋風建築についての講義を、さらに、通りを開いていくまちづくりについての講義を聴いた。来年度から、電線地中化無電柱化の推進に向けて、通りのあり方、まちづくりを検討していくうえで、大変参考となった。

まちカフェ開催一覧表

回	日時	場所	講師	タイトル
46	5月26日 (日)	京都文化博物館別館会議室	小西 宏之 京都地名研究会理事	三条通の町の由緒と景観づくり
47	8月15日 (木)	京都文化博物館別館会議室	八反裕太郎 颯川美術館主任学芸員	三条通と祇園祭 一三条通を巡行する北観音山の 新出古写真を手掛かりに一
48	9月23日 (月祝)	京都文化博物館別館会議室	西田雅嗣 京都工芸繊維大学教授・西洋建築史	日本の<西洋建築>と<様式>
49	11月10日 (日)	中央診療所駐車場	梅野星歩 梅鉢園 庭師	竹の結界を創る！
50	11月24日 (日)	京都文化博物館別館会議室	鈴木亜香音 亀岡市文化資料館学芸員	明治期における 三条通の地域の実態
51	12月21日 (土)	京都文化博物館別館会議室	野原卓 横浜国立大学准教授	まちにひらく、まちをひらく。 ～オープンシティのとりくみ
52	1月26日 (日)	京都文化博物館別館会議室	山口敬太 京都大学准教授・景観設計学	世界の歴史都市に見る 道路空間再編とデザイン
53	2月2日 (日)	京都文化博物館別館前デッキ	宮澤 早紀 佛光大学大学院博士後期課程	節分と鬼

## 第46回 まちカフェ

### 「三条通の町の由緒と景観づくり」

#### ●概要

市内で地元のまちづくりを進める地名研究者から、京の三条まちづくり協議会にある7町の町名の由来についての講演会を開催した。地名研究の作業は、分からないことが多く、京雀、京町鑑、寛永洛中絵図、京大絵図、京町御絵図細見大成等の資料と、地域の伝承等から推定される情報を、研究会の中で諮り制度を高めていくような作業で、京都坊目誌にも「6割は分かるが、4割は分からない」という旨が記載されているということである。その前提の上で、梅忠町は金工をやっている「埋忠」という人物が住んでいたことに由来する、柵屋町は、分からないと書いてあるが、当時柵は重要なものだったため、一件でも柵屋があるとそれが重視されたのではないかということなど、各町名の由来について解説された。

#### ●実施内容

日時：令和元年5月26日（日）14:00-15:30

場所：京都文化博物館別館2階講義室

参加人数：26名

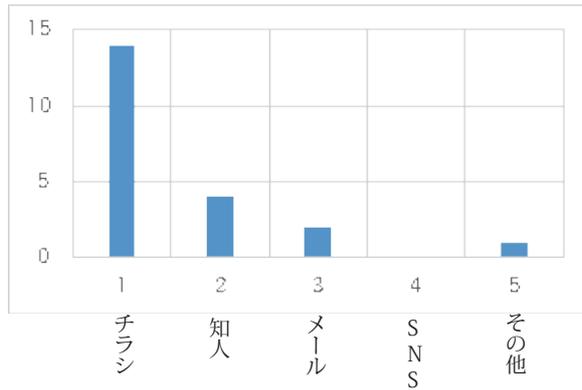
講師：小西宏之 氏／京都地名研究会副会長

#### ●所感・評価

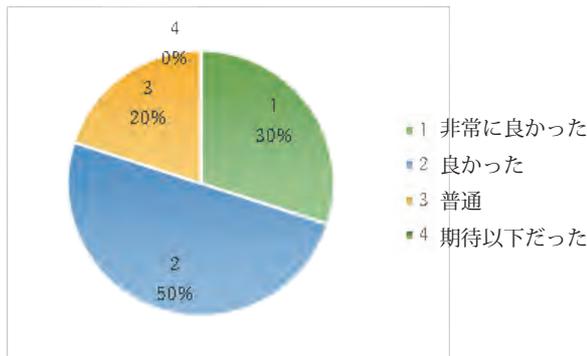
参加者は、自身の暮らすまちの名称が、昔の町内の商いやくらしの様子との関係から生まれ、その由来に意味があることに感心した様子であった。現存する形あるものだけでなく、目には見えないこうした由来も、現代の我々がまちづくりの根拠の一つとして活用していくことができるということに気付かされた勉強会となった。



【1】 本日のまちカフェ開催を、何でお知りになりましたか。（複数回答可）



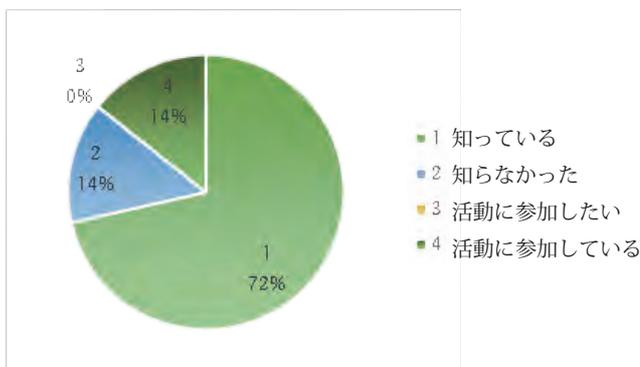
【3】 プログラムの内容はいかがでしたか？



※その理由

- 1. 京都の歴史が分かり興味深く、面白かった。愛着がわくように思いました。
- 1. 町名の由来、由緒を改めて知ることができてよかった。  
不詳なことでもそれに対する広い人たちの声で補完して いく考えは新たな発見だった。
- 2. 地名をまちづくりのきっかけにするという発想が良かった。
- 2. それぞれの町に潜む史実が紹介され、現代に至る足跡が偲べた。
- 2. 中世の話が聞けるとは思いもしなかった。
- 2. 歴史に基づく地名。知らないことばかりでした。
- 2. どういう参考になる資料があるのか分かった。修徳の取り組みはすごいなと思ったが、そこまで町の側でプランニングすることが認められていたのが、少し不思議。

【4】 「京の三条まちづくり協議会」の活動について（複数回答可）



【5】 三条のまちづくりについて、ご意見やご希望があればお書き下さい

- ・電線地中化よろしくお願ひします。
- ・京都の中心街としてますますのご活躍を祈念します。
- ・もっと三条通の西の方まで含めてまちづくりを進めてほしい。

## 第47回 まちカフェ

「三条通と祇園祭～三条通を巡行する北観音山の新出古写真を手掛かりに～」

### ●概要

かつて三条通を山鉾が巡行していたことはあまり知られていない。近時、明治初頭の三条通を東進する北観音山の古写真が見つかり、発表者の鑑定により山鉾巡行を写した最古の写真である点が判明した。この古写真と横山華山筆「祇園祭礼図巻」（京都文化博物館で8月17日まで開催中の横山華山展に出品）を手掛かりに、三条通の町並みの変遷や後祭の山鉾巡行の歴史について考察を行いたい。

### ●実施内容

日時：令和元年8月15日(木)10:30～12:00

場所：京都文化博物館本館3階フィルムシアター

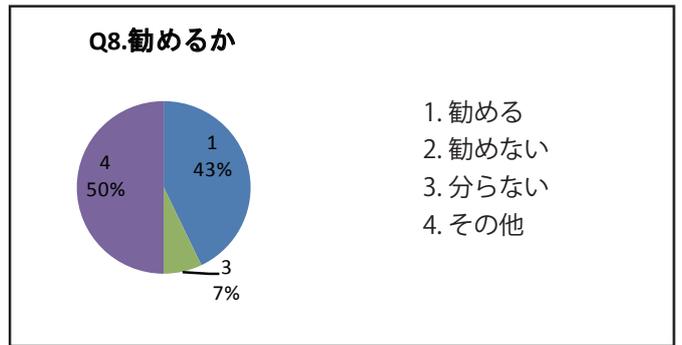
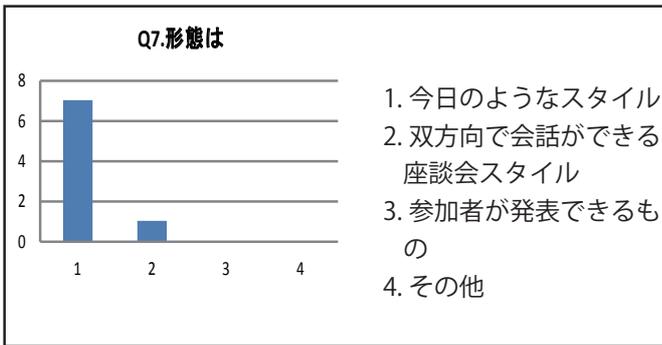
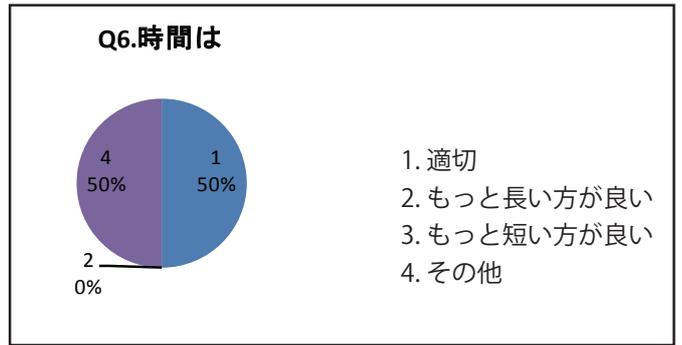
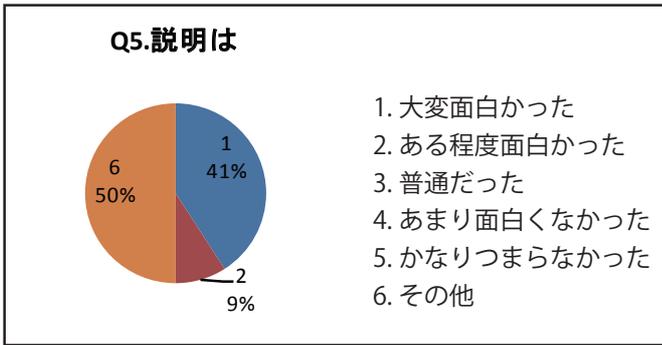
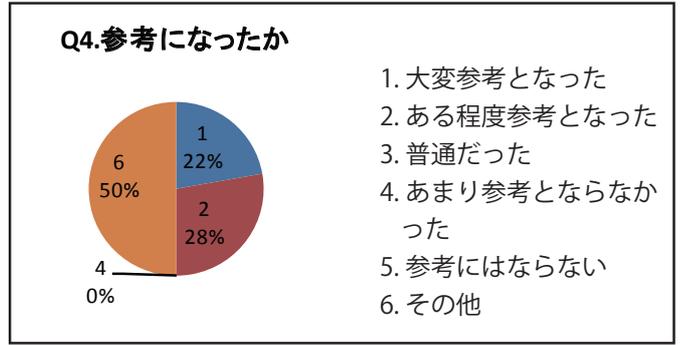
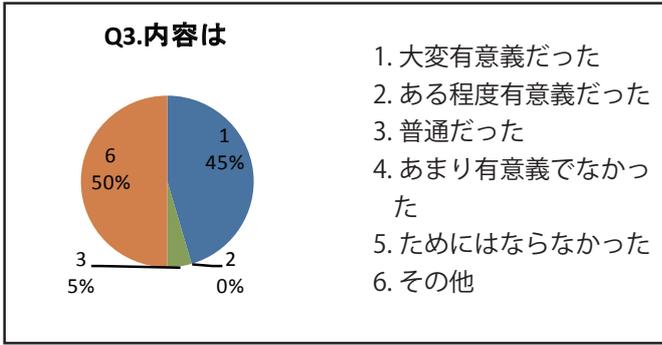
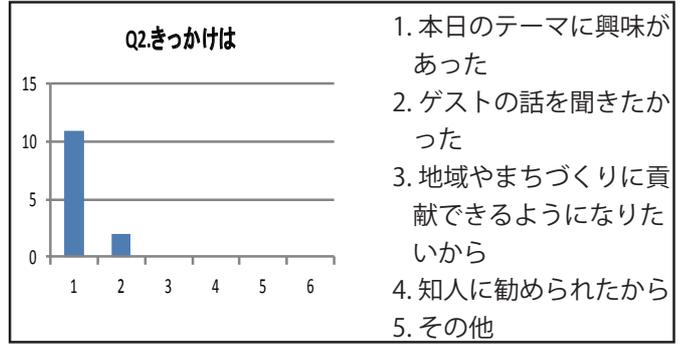
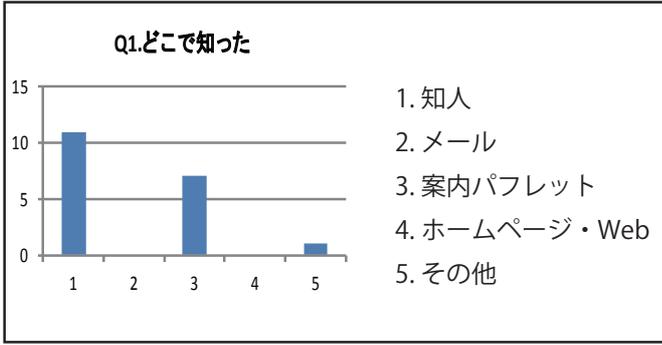
参加人数：22名

講師：八反 裕太郎 氏／颯川美術館学芸員・都のまつり文化研究会代表

### ●所感・評価

八反先生が企画された横山華山展（京都文化博物館、令和元年7月2日～8月17日）、特に「祇園祭礼図巻」が大好評を博す中での講演会であったので多数の来聴が期待されたが、あいにく台風が接近し警報の発令が危惧される中での開催となってしまったので参加人数は少なかった。この北観音山の写真が撮影された場所を特定する試みの一つとして、明治5年に三条通に敷設された電信柱の位置図が示された。京の三条まちづくり協議会では三条通の電線の地中化に取り組んでいるが、京都で最初に電線が張られたのが三条通の北側であったというのは新鮮な驚きであった。全体の参加人数は少なかったが、ご近所からの参加者の比率が高かったので質疑応答も和気あいあいとした雰囲気となった。





### Q9. 本日の感想や意見など

- ・三条通と祇園祭とのむかしからの深い関係が良く解りました。
- ・横山崋山展を見てより興味を持った。

### Q10. 三条通への希望、まちづくりへの期待など

- ・京三条まちカフェをさらに発展されますよう、祈ります。

## 第48回 まちカフェ

### 「日本の〈西洋建築〉と〈様式〉」

#### ●概要

西洋建築史を専門とする講師から、一般に「洋風建築」として一絡げに理解されている三条通の近代建築に関して、その本質を理解する勉強会を開催した。まず西洋建築の様式史を理解した上で、西洋において様式は形だけでなく、各時代と結びついた歴史を記述する道具として学術世界が生み出したものであるといった内容が語られた。そのうえで、辰野金吾や片山東熊ら西洋化を進めた日本の第一世代の建築家の作品を具体例に、西洋におけるそれとの違いから、西洋の人から見ると、これらは西洋風の「日本建築」と言えるということが伝えられた。

#### ●実施内容

日時：令和元年9月23日（月祝）14:00-16:00

場所：京都文化博物館別館2階講義室

参加人数：29名

講師：西田雅嗣氏／京都工芸繊維大学大学院 デザイン・建築学系教授

#### ●所感・評価

参加者からは、「西洋の各様式の違いについて初めて知った」「近代建築は、ヨーロッパのそれとは違い、日本のオリジナルのデザインであることに驚いた」といった感想が聞かれた。これまで、「レンガの通り」といった画一的な三条通のイメージが変化し、各建築の個性に目を向ける機会となったと考えられる。



## 第 49 回まちカフェ

「まちなかから三角コーンを失くそう！竹の結界を創る！」

### ●概要

京都のまちなか、特に三条通には、カラフルな三角コーンは似合いません。日本の伝統的な庭には、通っていい路や入ってはいけない所など、決まり事があり、それらをさりげなく示す仕掛けがあります。その一つが結界です。今回は専門家に指導を受けながら、本物の竹を使い、皆さんご自身で結界を制作して頂きます。ぜひ現在お使いの三角コーンと置き換えて下さい。

### ●実施内容

日時：令和元年 11 月 10 日（日） 14:00～17:00

場所：中央診療所 駐車場（三条高倉東）

参加人数：17 名

講師：梅野 星歩氏（株式会社 梅鉢園 代表取締役）

一級造園技能士・二級造園施工管理技士・南九州大学造園学科卒業

梅鉢園スタッフ 3 名

まず、梅野さんから「結界」についてのお話を伺った。「結界」とはもともと仏教用語で、聖なる場所と俗なる場所とを分ける境目を意味する。さらに身近なところでは、「内と外」を分けるものとして、暖簾や襖、縁側なども、結界の一種として捉えることが出来る。日本人は古くから、二つの両極を意識したものの見方をしていて、両方の堺は、隔てるものではなく結ぶものでもある。という講義を聴いたのちに、実際に結界づくりに取り掛かった。竹を組み立て「とっくり結び」「男結び」という古来の結び方で棕櫚の紐を括り付ける。出来上がった結界はそれぞれが持ち帰った。

### ●所感

まちなかからカラフルな三角コーンを、日本人の知恵である「結界」と置き換えて行こう、というキャンペーンの第一歩として実施した。駐輪お断りなどと書いたコーンを置くのではなく、日本人なら知っていてほしい「結界」によって、まちなみを整えて行きたいと考えている。この日は、3つのタイプの結界を、20個制作することができた。すぐに違法駐輪に困っていた中央郵便局の前にも於いて貰ったところ、実際に効果がみられた。これからも三角コーンを失くすために、結界を置くことを勧めて行きたい。

●参加者の感想 (アンケートに替えて聴き取り)

- ・梅野さん始め、スタッフの方が、丁寧に教えて下さって、とても楽しく作ることが出来た。
- ・紐の結び方は難しかったが、一旦ぐっと引っ張ると緩まないという、先人の知恵に感心した。
- ・日本の庭で良く見る結界を、コーンの代わりに置くという取り組みは、とても良いと思う。
- ・三条通に置いても意外と似合うと思った。



## 第 50 回 まちカフェ

### 「明治期における三条通の地域的実態」

#### ●概要

明治期の三条通周辺は、京都府主導による勧業化政策にともなう近代的諸施設やそれらを介して近代以降に現れる新聞社等の通信情報機関などの進出によって、京都を代表する中心市街地として機能していたことを明らかにされた。しかし、特定の施設の進出に目が向けられることが多く、三条通周辺の地域的実態やその変化については不明な点が多く残っている。そこで、土地利用や商工業者の構成などに着目して明治期の三条通周辺の変遷について読み解かれた。

#### ●実施内容

日時：令和元年 11 月 24 日（日）14:00-16:00

場所：京都文化博物別館会議室

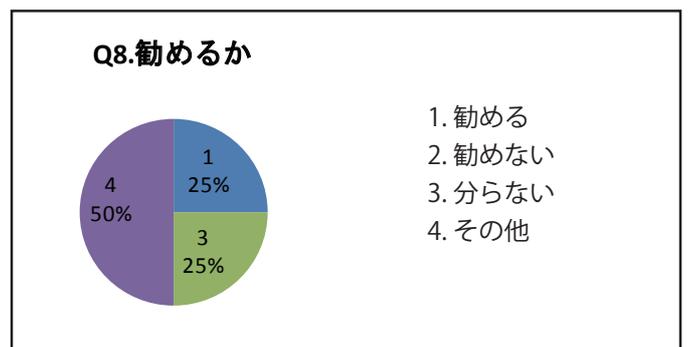
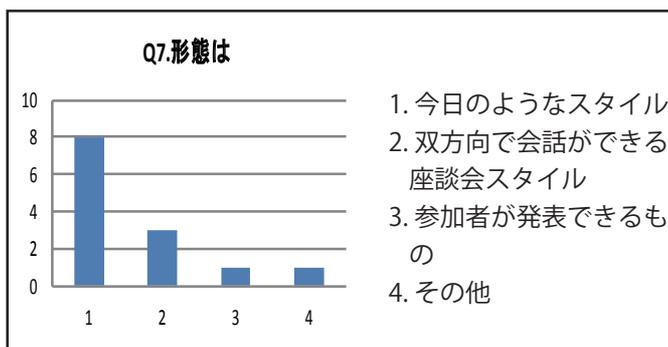
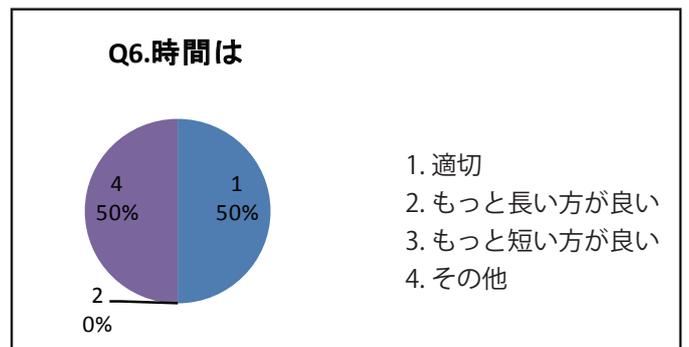
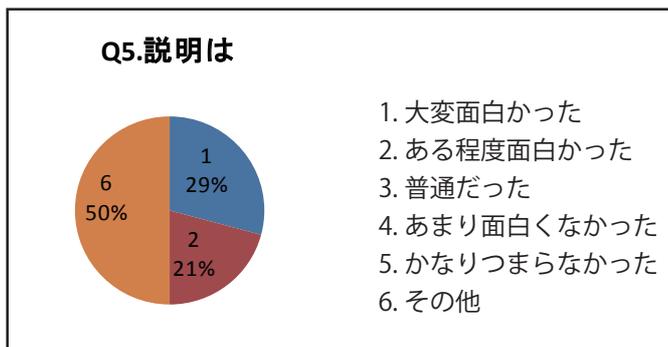
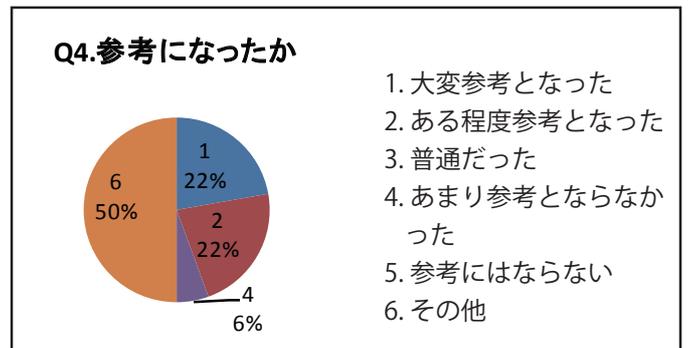
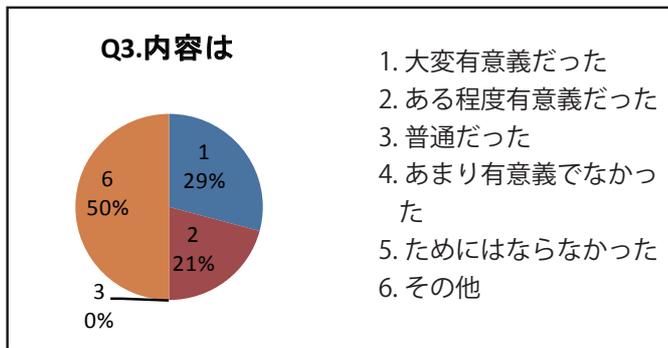
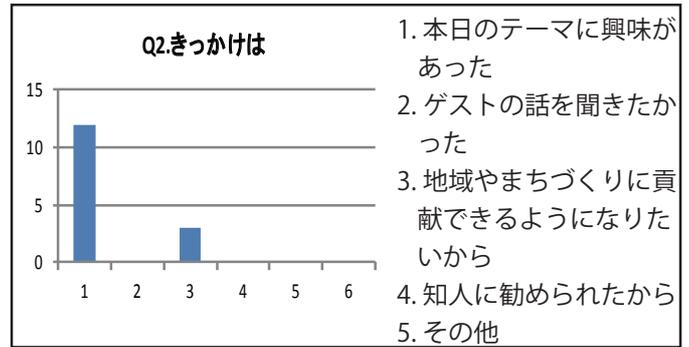
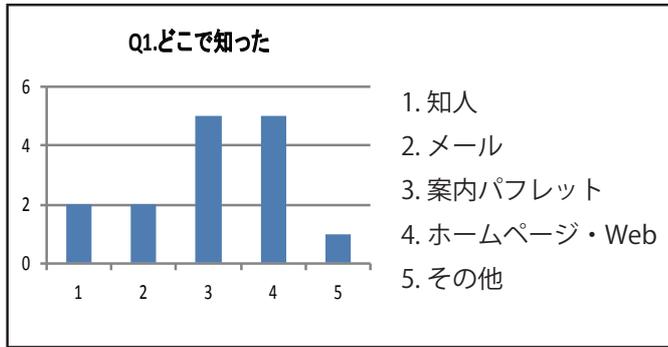
参加人数：22 名

講師：鈴木亜香音氏／亀岡市文化資料館学芸員

#### ●所感・評価

これまでに様々な形で明らかになっていた、明治期における新聞社や通信関連機関の進出による三条通のメインストリート化に加え、地域に密着した商工業者の変遷を明らかにされることで、今日まで続く三条通の地域特性を明らかにされた。これらの知見は、三条通の将来像を描くことの一つの指針となるべきことである。





・三条通でも市電のための道路の拡幅の検討がされたのでしょうか？  
 ・「鉦工業」というより「手工業」ではないのでしょうか？  
 京都では古くから手工業が発達したので、さらに細かい分析があれば興味深い。

・明治の「はいから」なイメージが残る商店街は全国的に珍しいというか、他に思い当たらない。「はいから」をテーマに時代行列をやりましょう。  
 ・祇園祭の山鉦が、また三条を通過して貫きましょう。無理ならミニチュア版でも。

## 第51回 まちカフェ

### 「まちにひらく、まちをひらく～オープンシティの取組～」

#### ●概要

地域資源をまちにひらく取組を実践、研究する講師から、その意義と、国内外の先進的な取組事例を学ぶ勉強会を開催した。毎年イギリスで行われ、約20万人が参加するオープンハウスロンドンの取組みでは、個人宅から大規模ビルまで、オーナーが自らその建築のすごさについて案内してくれるのが魅力となっていることが紹介された。興味を醸成し、関わることから対話が生まれ、皆でその価値を共有することで、結果的にまち全体の価値が高まることにつながるということである。このような取組が、世界、日本の各地で始まっているということである。

後半は自身に関わるものづくりのまち、東京都大田区のおおたクリエイティブタウンプロジェクトについて話された。BtoB主体の町工場が集積する地域に、新しい住居が交じり合い、その特徴が見えづらくなっている地域で、当初は拒否されていたが、工場を開き、人や技術をクローズアップさせる中で、多様な人材が関わるようになり、町工場の自尊心も高まるようになってきたことが報告された。これらの取組は、「何」を開くかということより、そのまちにとって何が大事であるかを考えること、みんなで考えることが大事だということである。

#### ●実施内容

日時：令和元年12月21日（土）14:00-16:00

場所：京都文化博物館別館2階講義室

参加人数：29名

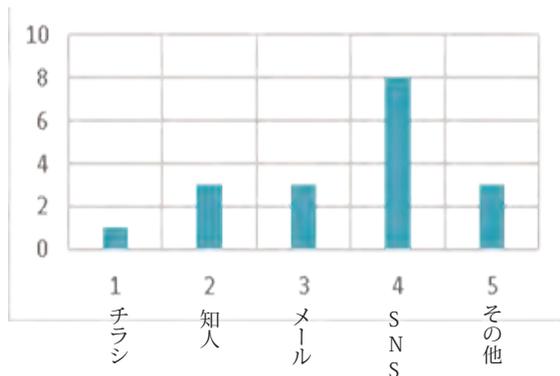
講師：野原卓氏／横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院准教授

#### ●所感・評価

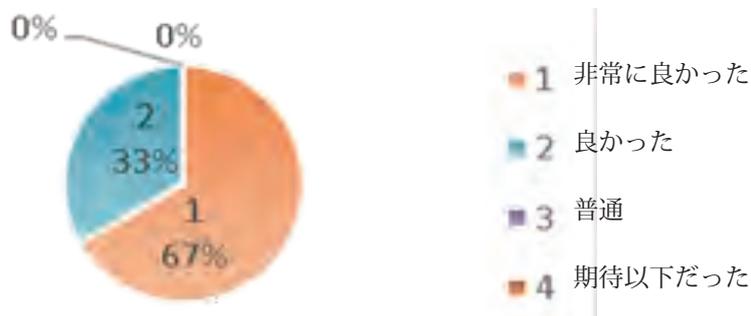
近代建築をまちにひらく取組を展望する京の三条まちづくり協議会とは地域資源の種類は異なるが、目標の設定、進め方の手法等、参考になる点が多かった。参加者のアンケートからも、「ぜひオープンハウス三条をやってほしいです」という期待が寄せられた。



【1】 本日のまちカフェ開催を、何でお知りになりましたか。（複数回答可）



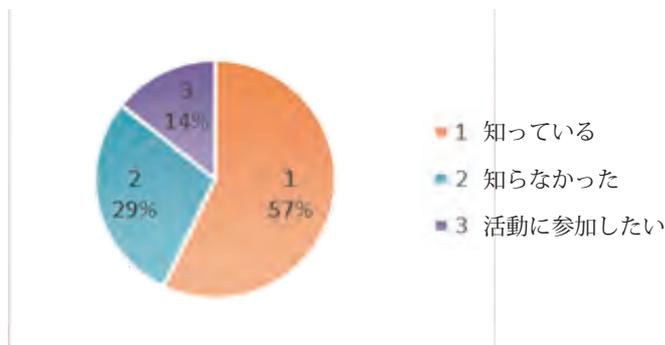
【3】 プログラムの内容はいかがでしたか？



※その理由

- 1. まちの活性化の手法として苦勞するだろうけど面白い取り組み、仕掛けだと思う。
- 1. オープンシティの事例や効果が分かった。
- 1. 具体的な取組が詳しく説明されていてよかったです。
- 2. 三条の現状を踏まえたディスカッションがあればよかった。
- 2. 写真や画像が多すぎる。
- 2. 国内外の事例から、建築物の公開のみならず庭や道路などの公開についても知ることができた。
- 2. 新しい知危機が得られた。お話を機に新しいアイデアが生まれた。
- 2. 知らないことが外国の例、日本の例を知ることができた。

【4】 「京の三条まちづくり協議会」の活動について（複数回答可）



【5】 三条のまちづくりについて、ご意見やご希望があればお書き下さい

- ・このエリアは魅力的な近代建築が多い。しかし、少し敷居の高い店舗が入っているため、なかなか入りにくい。もっと気軽に建築を楽しめる企画を期待している。
- ・ぜひオープンハウス三条をやってほしいです。
- ・新京極御池通のまちづくりにも参考にしたいです。

## 第52回 まちカフェ

### 「世界の歴史都市にみる道路空間再編とデザイン」

#### ●概要

近年、世界の歴史都市において、歩行者のための道路空間の再編が急速に進められている。パリ、ブリュッセル、ロンドン、ウィーンなどで進められている歴史的市街地の再生と歩行者空間化の取り組みを紹介され、都市のデザイン戦略や市民参画・協働のあり方について提示された。また、日本の歴史的市街地における公共デザインの課題や方法を、具体的事例をまじえて解説され、これからの公共デザインの可能性について示唆された。

#### ●実施内容

日時：令和2年1月26日（日）14:00-16:00

場所：京都文化博物別館会議室

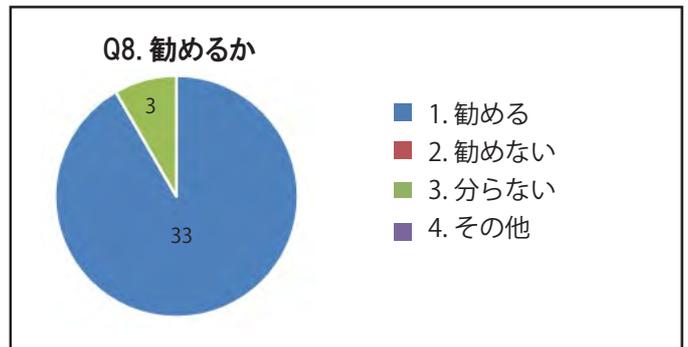
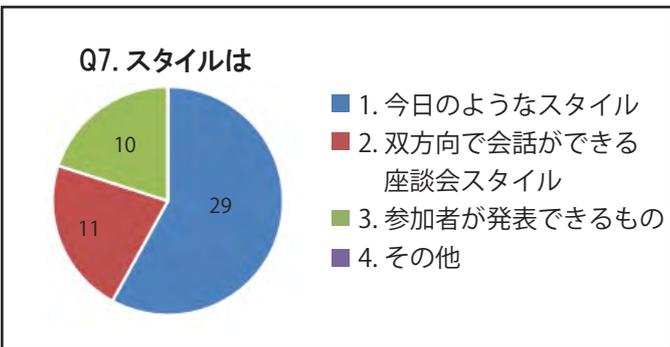
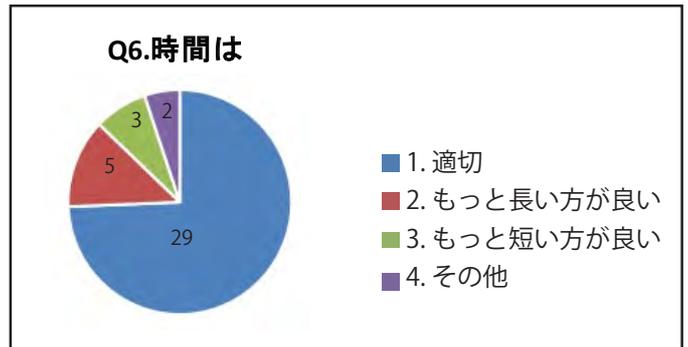
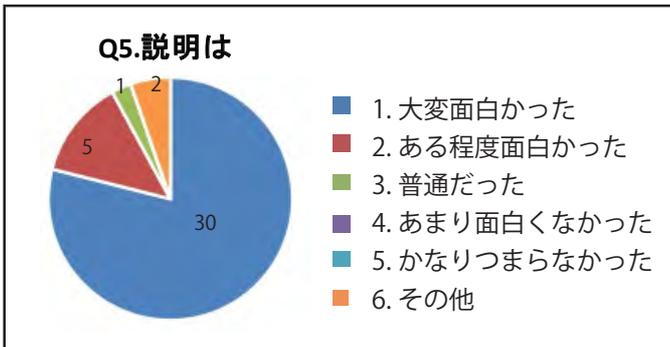
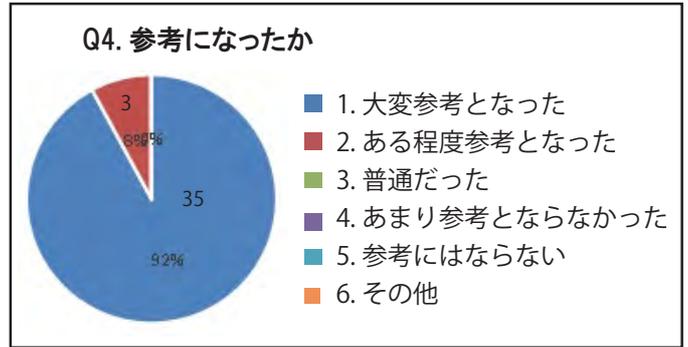
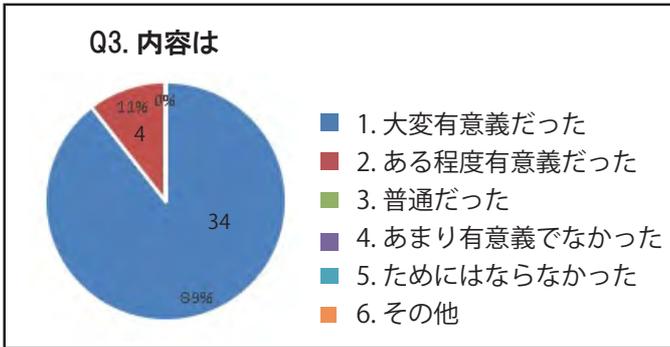
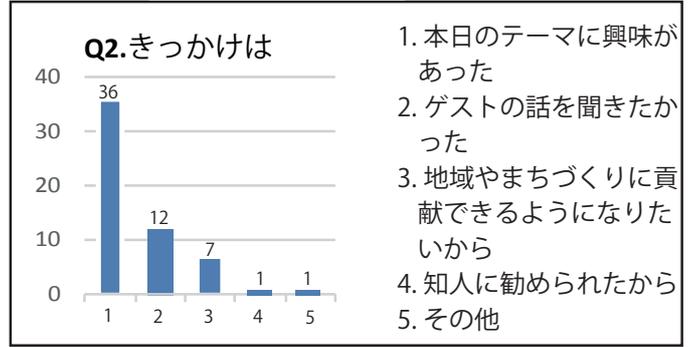
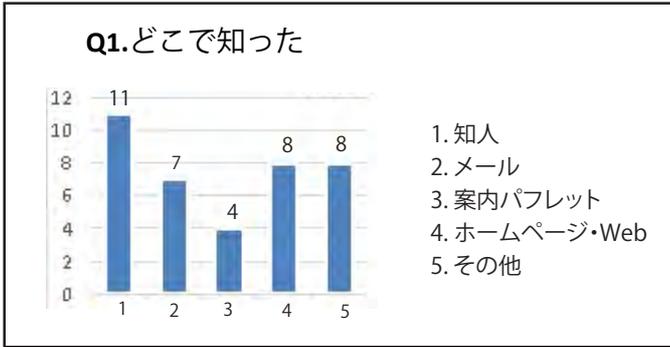
参加人数：65名

講師：山口敬太氏／京都大学准教授・景観設計学

#### ●所感・評価

世界の歴史都市における、歩行者のための道路空間の活用の具体的事例をご提示いただいた。これらを踏まえることで、明治期には京都のメインストリートであった三条通の今後の在り方を考える契機としなければならないと考えられる。またご提示いただいた、市民参画や共同の在り方を参考に、三条通にお住まいの方、ご商売をされている方、訪れる方など三条通に関わるすべてのみなさまとともに、三条通の将来像を描く組織づくりが喫緊の課題であることを認識した。





### Q9. 本日の感想や意見など

- ・世界でこんなに多くの道路再編が行われているのかと興味深く聞かせて頂きました。プロセスや体制のお話もとても勉強になりました。
- ・道路空間の再編という伝統的なテーマにおいても、新たなトレンド・手法が生み出されている事を知れて大変勉強になった。⇒何でも使える柔軟な広場をどう”柔軟”に使おうか、使えるかも気になった。(日本で)
- ・休憩をはさんで、もう少しじっくりお話をききたかった。先生の熱心さで興味が深まった。

### Q10. 三条通への希望、まちづくりへの期待など

- ・現状は観光客で賑わっていますが、観光客は水物で増減があると思うので、地元にあった、地域の人を楽しめる街の形を考えていく事も長期的には必要かと思います。
- ・無電柱化の実施に期待しています。
- ・歴史的な特徴を残しながら、体験を共有できる場としてさらなる磨きをかけてほしい。

## 第53回 まちカフェ 「節分と鬼」

### ●概要

節分の日には「鬼は外」「福は内」と言って豆まきが行われます。豆まきでは誰かが鬼の面をつけ、鬼の役に扮します。どうして私たちは鬼を追い払うのでしょうか。節分の由来や「鬼」に込められた意味をご紹介します。

### ●実施内容

日時：令和2年2月2日(日)11:00～11:30

場所：京都文化博物館前

参加人数：約50人

講師：佛敎大学大学院博士後期課程 宮澤 早紀 氏

### ●所感・評価

恒例となっている「春を呼ぶ節分もちつき大会」のプログラムの一つとして実施されました。もち米を蒸す良い香りが三条通にただよう中での講演で、近所の子供たち、毎年お手伝いに来てくださる京都学生祭典の大学生たちや京都外国語大学国際文化資料館の方々も宮澤先生のお話に聞き入っておられました。

宮澤先生は紙芝居風の手描きの絵をたくさん準備して下さり、節分行事と鬼について丁寧にわかりやすく熱心に説明してくださいました。テレビで見る「鬼」は金棒を持っていますが、本来の金棒は「鬼」を追い払う方相氏(ほうそうし)の道具であり、眼に見えない鬼がいつのまにか方相氏と混同されてしまったというお話は目からウロコが落ちる思いでした。宮澤先生のお話を聞いて民俗学に興味を持たれた方も多かったのではないのでしょうか。



## 姉小路

(総括)

今年度は、姉小路界隈に散財する京町家の価値の再評価、京町家の価値を顕在化させ、定着させてきた取組を振り返り、共有することを目的とした活動を行ってきた。

まちカフェにおいては、第1, 3回は、長年にわたり、姉小路、三条の両界隈のまちづくりに関わり、かつ調査・研究をされてきた立場から話題提供があった。また、第2回は、今年度実施した「京町家現状調査業務」の成果を共有するためにまちあるきを行った。

(各回の実施概要)

- ① 「京都のまちなかにおけるまちづくり 20年と今後の展望～京町家の保全・継承とまちづくり」

日時：令和元年7月11日(木) 18時~20時

場所：京都文化博物館本館7階ロビー

講師：高田光雄氏(京都工芸美術大学教授、京都大学名誉教授)

参加人数：10名

参加者の主な意見

- ・長く京町家の保全・継承の現場における実践、行政の政策形成に関わる講師の話が聞くことができてよかった。
- ・姉小路通、三条通のそれぞれの特徴を踏まえた話を聞くことができてよかった。
- ・「生活文化の継承」ということが印象に残った。

- ② 「姉小路界隈の京町家まちあるき」(午前・午後2回)

日時：令和元年11月10日(木) 10時~12時、13時~15時

場所：姉小路界隈(集合：ギャラリー象鯨)

講師：永松 尚(古材文化の会理事、京都市文化財マネージャー(プロジェクトマネージャー))

参加人数：午前：12人、午後：6人

参加者の感想等

- ・京町家に関わる専門家による基本知識を現場の建物を通じて知ることができてよかった。
- ・京町家の見方を知ることができてよかった。
- ・姉小路界隈の京町家の価値を知ることができてよかった。

- ③ 「京都の景観まちづくり 20年」

日時：令和2年3月19日(木) 18時~20時

場所：ギャラリー吉象堂

講師：Prof. Dr. Christoph Brumann (Max Planck Institute for Social Anthropology)、  
杉崎和久(法政大学教授)

参加人数：10名

参加者の感想等

- ・京都の景観まちづくりに関わる人たちとの信頼を構築して、多くの現場を見聞きして

いる立場からの話は興味深かった。

- ・ドイツ（ライプチヒ）の街並みや道路のあり方を通じて、日本の街並みづくりの課題への気づきがあった。



#### (イ) リレー講座・文学対談

2019年で創設150周年にあたった番組小学校を地域資源の形で活かしていくために、「明治2年の京都」というリレー講座、及び「作者にあおう」という文学対談を開催した。リレー講座では学際的な視点から番組小ができた時点を総体的に紹介し、文学対談では逆に番組小を描いた書籍を対象とすることで、番組小をミクロに深く掘り下げた。

##### 【実施概要】

##### ●リレー講座「明治2年の京都」

##### ① 「山鉾」

2019年7月7日（日）14:00～15:30

京都市学校歴史博物館 3F 講義室

講師：橋本 章 氏（京都府京都文化博物館）

参加人数：60名

##### ② 「学校」

2019年9月23日（月・祝）10:00～11:30

京都市学校歴史博物館 2F 講堂

講師：和崎 光太郎 氏（浜松学院大学短期大学部・京都市学校歴史博物館顧問）

参加人数：66名

##### ③ 「御紋」

2019年10月22日（火・祝）14:00～15:30

京都市学校歴史博物館 2F 講堂

講師：村山 弘太郎 氏（京都外国語大学）

参加人数：73名

##### ④ 「自然」

2019年11月16日(土) 14:00~15:30  
京都市学校歴史博物館 3F 講義室  
講師：林 潤平 (京都市学校歴史博物館)  
参加人数：45名

⑤ 「画家」

2019年12月7日(土) 14:00~15:30  
京都市学校歴史博物館 3F 講義室  
講師：森 光彦 (京都市学校歴史博物館)  
参加人数：27名

● 「作者にあおう！番組小学校を描く」

① 第1回：小説『御苑に近き学び舎に——京都・番組小学校の誕生』

2019年6月15日(土) 14:00~15:30  
京都市学校歴史博物館 3F 講義室  
対談者：荒木 源 氏 (小説家)  
和崎 光太郎 氏 (浜松学院大学短期大学部・京都市学校歴史博物館顧問)  
参加人数：44名

② 第2回：研究書『京都 学び舎の建築史』

2019年10月6日(日) 14:00~15:30  
京都市学校歴史博物館 3F 講義室  
対談者：大場 修 氏 (京都府立大学大学院)  
和崎 光太郎 氏 (浜松学院大学短期大学部・京都市学校歴史博物館顧問)  
参加人数：31名

③ 第3階：新聞小説『花の妹 岸田俊子伝 女性民権運動の先駆者』

2019年11月24日(日) 14:00~15:30  
京都市学校歴史博物館 3F 講義室  
対談者：西川 祐子 氏 (元京都文教大学教授)  
和崎 光太郎 氏 (浜松学院大学短期大学部・京都市学校歴史博物館顧問)  
参加人数：36名

【実施報告 (アンケート結果)】

● リレー講座

参加者計 271 名のうち、163 名にアンケートのご提出をいただいた。特徴的であったのが、それぞれのトピックについてはよくご存じの参加者もいたものの、そのトピックが番組小のできた当時、どのような状況だったのかについては、注目したことがない人も多かったことである。アンケートからは、そうした観点からより詳しく知ることができたという回答を多くいただいた。番組小の魅力をより深く、さらにより広く紹介ができたというこの結果は、リレー講座が当館の企図していた、地域資源の形で番組小をより積極的に活

かしていくための機会づくりとなったことを、明瞭に示していよう。

### ●文学対談

参加者計 111 名のうち、47 名にアンケートのご提出をいただいた。特徴的であったのが、裏話を聞いてよかったというものや、知らないことばかりだったという回答、さらには丹念な調査に驚いた意見であった。番組小に関する細かく、ミクロな知見を紹介できたというこの結果はまた、文学対談が当初の狙い通り当館の企図した機会となったことを示唆してくれている。



リレー講座②「学校」の様



文学対談③の様

### (ウ) シンポジウム「学校資料の活用を考える II」

学校資料を地域の文化資源として有効に活用するための認識を拡大するべく、当館では学校資料の価値と可能性を広い視点から議論するシンポジウム「学校資料の活用を考える II」を開催した。このシンポジウムでは全国で学校資料に関する活動を行う 5 名の報告者に登壇いただき、最新の学校資料の価値に関する知見を多角的に紹介した。

#### 【実施概要】

2020 年 1 月 11 日 (土) 13:00~16:30

京都市学校歴史博物館 2F 講堂

講師：嶋田 典人 氏 (香川県立文書館)

花井 久穂 氏 (東京国立近代美術館工芸館)

羽毛田 智幸 氏 (横浜市歴史博物館)

村野 正景 氏 (京都府京都文化博物館)

和崎 光太郎 氏 (浜松学院大学短期大学部・京都市学校歴史博物館顧問)

参加人数：60 名

#### 【実施報告】

事業の性質上、シンポジウムではアンケートをとらなかった。しかし、終了後に参加者と質疑等交流を深めていくなかでは、様々な観点から学校資料に関する実践のを知ることができてよかった、という話を頂戴した。その意味で学校資料をめぐる最新の知見を「多角的」に紹介するという当館の企図は達成できたと考えることができ、加えてこのイベントと関連して

シンポジウム報告書を作成，発行することで，この新しい知見をより広い人々の手に届けることができたと考えている。



シンポジウムの模様①



シンポジウムの模様②

## ② 文献調査・事例調査

主に京都文化博物館の学芸員が中心となって、地域文化資源を活用するための調査及び、文献調査を行った。その成果は今年度の事業へ反映させることができ、また、今後の地域催事や講座等への活用も図る。

## ③ 地域事業実践のための文化資源発掘

### (ア) 京町家調査 現状調査業務・三次元解析

今年度は、姉小路界隈の地域資源である京町家に関する現況調査（2件）、京町家の散財する街並みを地域資源として継続してきたまちづくり活動の成果を取りまとめた資料作成を行った。前者として、まずは街並みの画像データの収集を行い、そのデータを連続させることにより、3次元の街並み連続データの作成を行った。もう一つは、京都市文化財マネージャーにより、界隈にある京町家の外観調査を行い、その特徴について分析を行った。これらの成果はいずれも「辰野金吾没後 100 年 文博界隈の近代建築と地域事業」展の会場で展示された。また、後者は文化財等に指定、登録等された界隈の京町家を地図上に配置し、これらを活かしたまちづくりに関わる制度等の解説を取りまとめた資料を作成し、文化博物館来訪者や姉小路界隈の視察来訪者に配布された。

(各回の実施概要)

#### (i) 京町家調査 三次元解析データ収集

実施日時：令和元年8月

調査内容：姉小路通（寺町通から烏丸通約 700m）の街並みを対象として、画像撮影を行い、その画像データから 3D データへの加工を行った。また、作成した 3D データからウォークスルー動画を作成し、「辰野金吾没後 100 年 文博界隈の近代建築と地域事業」展の会場にて、展示した。

#### (ii) 姉小路界隈 京町家現状調査

実施日時：令和元年8月

調査内容：姉小路界隈（概ね南北方向は御池通～三条通、東西方向は寺町通～烏丸通）にある京町家を対象として、概観から判断できる京町家の特徴を分析する。また、説

明資料としてのパネル（A1サイズ4枚）を作成し、「辰野金吾没後100年 文博会  
 限の近代建築と地域事業」展の会場に展示した。

(iii)姉小路界限まちづくり活動成果マップ作製

実施日時：令和2年2月～3月

調査内容：姉小路界限（概ね南北方向は御池通～三条通、東西方向は寺町通～烏丸通）にある京町家を対象として、概観から判断できる京町家の特徴を分析する。また、説明資料としてのパネル（A1サイズ4枚）を作成し、「辰野金吾没後100年 文博会限の近代建築と地域事業」展の会場に展示した。

**「姉小路を彩る建物」の見た** その1 京都を彩る建物や庭園 近代建築... 戦時下の記憶

近代建築の発展と共に、戦時下の記憶を伝える役割を果たしている。戦時下の記憶を伝える役割を果たしている。戦時下の記憶を伝える役割を果たしている。

**「姉小路を彩る建物」の見た** その3 近代建築への視点、選んで見る家づくり

近代建築への視点、選んで見る家づくり。近代建築への視点、選んで見る家づくり。近代建築への視点、選んで見る家づくり。

**「姉小路を彩る建物」の見た** その2 京都を彩る建物や庭園 近代建築... 次世代へ繋げる

京都を彩る建物や庭園、近代建築、次世代へ繋げる。京都を彩る建物や庭園、近代建築、次世代へ繋げる。京都を彩る建物や庭園、近代建築、次世代へ繋げる。

**「姉小路を彩る建物」の見た** その3 近代建築への視点、選んで見る家づくり

近代建築への視点、選んで見る家づくり。近代建築への視点、選んで見る家づくり。近代建築への視点、選んで見る家づくり。

**「姉小路を彩る建物」の見た** その4 京都を彩る建物や庭園 近代建築... 京町家への視点、都心にたつちる近代建築

京都を彩る建物や庭園、近代建築、京町家への視点、都心にたつちる近代建築。京都を彩る建物や庭園、近代建築、京町家への視点、都心にたつちる近代建築。

**「姉小路を彩る建物」の見た** 参考 「京都を彩る建物や庭園制度」について

参考 「京都を彩る建物や庭園制度」について。参考 「京都を彩る建物や庭園制度」について。参考 「京都を彩る建物や庭園制度」について。

**「姉小路を彩る建物」の見た** 「近代建築」から「近代建築」への影響

「近代建築」から「近代建築」への影響。近代建築、近代建築、近代建築。近代建築、近代建築、近代建築。



④ 催事（神輿祭り、節分餅つき）の実践

（総括）

地域事業の実践として、「三条通りお神輿まつり」と「春を呼ぶ三条節分もちつき大会」を実施した。共に関連した勉強会（京の三条まちづくりカフェ）を開催することで、祇園祭や節分のもちつきについて学び、地域の伝統行事や伝統文化を、地域住民や学生、子ども達、京都に観光で訪れた方々と共に体験した。この事業はミュージアム（京都文化博物館）が主導する持続可能な地域・観光モデルの開発にとって、大変有意義な事業である。

（各回の実施概要）

(i) 「三条通りお神輿まつり」

実施日時：日時 令和1年7月24日 19時から22時頃

場所：株式会社千總前（京都市中京区三条通烏丸西入ル）

参加人数：およそ1000名

実施概要：7月24日に地域の文化資源である祇園祭の後祭の還幸祭での3基の神輿の渡御をお迎えする「三条通りお神輿まつり」をミュージアム（京都文化博物館）が中心となり地域住民、京都学生祭典の大学生達と共働して開催した。地域連携の活性化に繋がることを目的とすると共に、国内外からの多くの観光客の参加もあり、持続可能な地域・観光モデルである。8月15日には研究会（まちカフェ）として講師に穎川美術館学芸員の八反裕太郎氏をお招きし、「三条通と祇園祭」-三条通を巡行する北観音山の新出古写真を手掛かりにーについて京都文化博物館にてご講演いただいた。

(ii) 「春を呼ぶ 節分もちつき大会」

実施日時：令和2年2月2日 11時から14時頃

場所：京都文化博物館前ウッドデッキ（京都市中京区三条通高倉角）

参加人数：およそ600名

実施概要：まず研究会（まちカフェ）として『節分と鬼』について、佛教大学大学院博士後期課程の宮澤早紀氏にご講演いただき、実践の場として「節分もちつき大会」を開催した。餅米を蒸す作業から餅をつき、丸めて、味付けをする作業を京都文化博物館、地域住民、京都学生祭典の学生などと共に行い、地域住民、内外からの旅行者や子ども達にももちつきの体験や振舞い餅を行った。もち米を20キロ用意し、600食ほどを振る舞った。他にも京・獅子舞プロジェクトによる舞の披露や京都国際文化資料館の学芸員による、こま、めんこ、けん玉など、昔の遊びを体験できる場も用意した。日本の伝統文化を体験でき、様々な世代の国内外からの観光客も多く、ミュージアムが主導する持続可能な地域・観光モデルとしての成功例の1つである。

## (アンケート結果)

三條通りお神輿祭り アンケート集計結果(回答者数 23名)  
京都歴史文化施設クラスター実行委員会  
2019年7月24日実施 千總前

質問Ⅰ ご回答者の所属及びご本人についてお尋ねします。

ご所属	①京の三條まちづくり協議会 4 ②姉小路界隈を考える会 0 ③京都学生祭典 13 ④その他 6			
ご職業	①会社員 4    ②自営業 1    ③専門職 0 ④公務員 0    ⑤教育関係 1    ⑥学生 13 ⑦その他 4			
お住まい	京都市 18	中京区9、北区1、左京区2、右京区1、東山区1 上京区2、下京区1、西京区1		
	京都府下 3	長岡京市1、宇治市1、向日市1		
	他府県 2	滋賀県1、大阪府1		
年齢	0代 1 40代 3	10代 0 50代 3	20代 13 未回答 2	30代 1
性別	男 7	女 16		

質問Ⅱ お神輿祭りについてお尋ねします。

Q1:どこで「お神輿祭り」お知りになりましたか？(複数回答可)

- (1)知人 6    (2)メール 0    (3)案内パンフ 5  
(4)HP 2    (5)京都学生祭典 11  
(6)その他 1

Q2:「お神輿祭り」に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

- ・サークルがきっかけ
- ・楽しいから
- ・運営の手伝いがしたかったから
- ・近くで神輿を見たかったから
- ・京の三條まちづくり協議会の活動として
- ・昨年度もお手伝いさせていただき担ぎ手や子どもたち楽しんで頂けたため
- ・京都学生祭典から募集があり、興味があったので
- ・日頃からお世話になっている三条地域の皆様に感謝の気持ちを込めてお手伝いさせていただきたかった
- ・同じ「祭」をつくる団体として勉強になると感じ参加した
- ・京の三條まちづくり協議会の魅力ある取組のお手伝いをしたいと思ったから
- ・お神輿の迫力が好きだから
- ・花火ができると知ったから
- ・花火が楽しそうだったから

Q3:「お神輿祭り」の内容はいかがでしたか？

- (1)大変有意義であった 19    (2)ある程度有意義であった 4  
(3)普通だった 0    (4)あまり有意義ではなかった 0  
(5)かなりつまらなかった 0    (6)その他 0

Q4:Q3の理由があれば教えてください。

- ・年に一度、さらに今年は祇園祭1150周年ということで、お神輿も特別の迫力があったから
- ・神輿の迫力がすごかった
- ・神輿の後の太鼓が迫力があった
- ・とても迫力があり、感動した。また見たいと思った
- ・地域の方々が祭りを支えられている姿が印象的で、私もその一端を担いお手伝いできたため
- ・伝統あるお祭りの運営に携わることができ、とても勉強になったため
- ・祇園祭の雰囲気を感じることができたため
- ・お祭りに参加することができたので、「自分の町」のお祭り実感できた
- ・子どもたちが地域のつながりの中で花火大会を楽しんでいた
- ・地域の方々が協議会の意義を承知出来て、絆を深められる良い機会ですね
- ・地域の知り合いも増えたので
- ・毎年楽しみにしています
- ・京都の歴史、町衆の心意気を感じられる意義は深い
- ・子どもが楽しんでた

Q5:「お神輿祭り」の感想や意見などをお聞かせください。

- ・とても人が多くて、おどろきました
  - ・年に1度しかない祇園祭のお神輿を見れて良かった
  - ・大迫力でした 圧倒されました
  - ・大きなお神輿とたくさんの人をみて、大迫力でした
  - ・地域の方とのつながりが深められたと思いました
  - ・年中行事があることで地域のつながりが深まる素晴らしさを感じました
  - ・迫力ある神輿をまじかで見ることができ、楽しめた
  - ・神輿だけでなく、和太鼓のパフォーマンスも大勢の人が集まっていて、イベントとして成功していた
  - ・沢山の人がお神輿を担いでいることを知っておどろいた
  - ・近くで見る機会がなかったので、感動した
  - ・今年も貴重な体験ができました ありがとうございました
  - ・伝統あるお神輿祭りに参加させていただき、とても貴重な経験となりました
  - ・地域の方々との交流も行い、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができました
  - ・子どもたちがたくさん来てくれてうれしいです 花火も継続できるといいなと思います
  - ・今年は1150年で三基の神輿が同時間帯にそろって見事でした
  - ・海外からの多くの旅行者が太鼓の演奏を喜んで見ていたのが良かった
  - ・花火に苦情があれば、縮小してスイカ割りとか縁日遊びとかはどうでしょうか
  - ・見学者のマナーの向上を考えなければと思う
  - ・今後も続けていけるよう、がんばって下さい
  - ・またきたい
  - ・来年も来たいです
- 大変楽しかったです ありがとうございました

節分もちつき大会アンケート集計結果(回答者数 80名)  
 京都歴史文化施設クラスター実行委員会  
 2020年2月2日 実施

質問Ⅰ ご回答者の所属及びご本人についてお尋ねします。

ご所属	①京の三条まちづくり協議会 8 ②姉小路界隈を考える会 1 ③京都学生祭典 36 ④国際文化資料館 3 ⑤その他 32			
ご職業	①会社員 13 ④公務員 1 ⑦主婦 3	②自営業 5 ⑤教育関係 4 ⑧その他 8	③専門職 1 ⑥学生 45	
お住まい	京都市 49 京都府下 3 他府県 26 未回答 2	中京区17、上京区3、左京区7、右京区6、東山区3 伏見区2、山科区3、北区5、下京区2、南区1 亀岡市2、宇治市1、城陽市1 滋賀県10、大阪府9、兵庫県3、茨城県2、奈良県1、東京都1		
年齢	0代 3 40代 12	10代 22 50代 13	20代 26 未回答 1	30代 3
性別	男 27	女 53		

質問Ⅱ 「もちつき大会」についてお尋ねします。

Q1:どこで「もちつき大会」をお知りになりましたか？(複数回答可)

- |         |            |                      |
|---------|------------|----------------------|
| (1)知人 7 | (2)メール 1   | (3)案内パンフ 8           |
| (4)HP 3 | (5)学生祭典 36 | (5)国際資料館 3 (6)その他 23 |

Q2:「もちつき大会」に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

- ・おもちがおいしそうだったから
- ・以前にももちつき大会に参加したことがあったから
- ・京都学生祭典で募集があったので
- ・日本の伝統行事に子どもを参加させたかったので
- ・おもちが好きで、前に来たとき、昔遊びも楽しかったので
- ・つきたてのおもちが食べたかったから
- ・もちつきの体験がなかったので、やってみたかった
- ・地域のイベントに参加したかったから
- ・京都学生祭典のメンバーとして地域の力になりたかったから
- ・京都学生祭典の先輩の感想を聞いて、凄く参加したいと思っていたので
- ・昨年も参加して、楽しかったから
- ・長い間、もちつきをしていなかった
- ・地域の方と交流ができるので
- ・活気があり、人が多くて気になって足を止めた
- ・ふるまい餅の存在
- ・まちづくりに興味があるので
- ・子どもたちが楽しめると思ったので
- ・毎年参加しているので
- ・獅子舞が見えたので、参加しました
- ・たまたま通りかかって、子どもが節分のもちつきに興味を持ったので
- ・まちづくりとして面白い取り組みだと思ったので
- ・歴史的建物の前で行うことに興味を持ったので
- ・協議会関係者からお誘いがあったので
- ・おもちの味付けも3種類あってよかった

Q3:「もちつき大会」の内容はいかがでしたか？

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| (1)大変有意義であった 63 | (2)ある程度有意義であった 11 |
| (3)普通だった 5      | (4)あまり有意義ではなかった 0 |

Q4: Q3の理由があれば教えてください。

- ・最近ではなかなか見られない行事だから
- ・いろいろな年代が参加していたので
- ・老若男女ともに、結構盛り上がっていたので
- ・つきたての餅がおいしかった
- ・大学生が楽しそうにしていたので
- ・子どもの昔遊びの場があって、学生さんに遊んでいただいたので
- ・紙芝居のまちづくりカフェがよかったので
- ・みんなが協力して、餅つきをしている姿が良かったので
- ・最近あまりもちつきを見る機会が無く、子どもに見せてあげられたので
- ・もちつきも経験でき、獅子舞にも頭をかんでもらえたから、
- ・人が道路を乱横断しつつ、車と人が空間をシェアする動きが見られた
- ・節分を意識するきっかけになった
- ・もちつき、昔遊びの質の高さ
- ・この地域が活発なのが分かって良かった
- ・地域の方と交流ができて、すごく充実したものでした
- ・多くの方と関わって、もちつき大会を実施することができたため
- ・通りがかった方も参加されていたので、地域の活性化につながっていると感じた
- ・餅の量が少なく、早く終了してしまったのが残念
- ・地域の方と交流ができ、京都学生祭典のことも広報できたので
- ・昔遊びがたのしいし、とっておもしろいことが多かったから
- ・地域の方々がうれしそうだったので
- ・幅広い年齢層の人たちと関われる機会になったと思う

Q5: 本日の感想や意見などをご記入ください。

- ・もちつき大会をされているところはあまりないので、子どもには新鮮だった
  - ・京都の景観の中でできることは非常に良いと思う
  - ・美しいまちを作っていたらと思います
  - ・もちつきという貴重な体験ができて良かった
  - ・餅をついたおかげで手がふるえて、書くのがつらいです
  - ・振舞い餅をされていて、みんながよろこぶと思った
  - ・獅子舞も来ていたのが良かった
  - ・とても楽しく、良い経験ができました
  - ・子どもにもちつきをもっと体験させてほしかった
  - ・おもちはおいしいし、昔遊びも楽しかった 次回もまた行きたいです
  - ・地域の方々と楽しくもちつきができ、良い機会になりました
  - ・楽しみながら、おもちをまるめることができました
  - ・自分も、来てくださった方も楽しくできたと思うのでよかったです
  - ・楽しい時間をありがとうございました
  - ・また来年も参加させて頂きたいです
  - ・もちをまるめる担当だったので、あまり客と関われなかったが、仲間と楽しめた
  - ・京都学生祭典の本祭の宣伝もしていただいて大変ありがたかったです
  - ・初めてもちつきをすることができて、とても良かったです
  - ・もちつきを通して、地域子ども達と交流でき、とても楽しく充実した時間でした
  - ・たくさんの方と交流ができて本当に楽しかったです
  - ・美味しいおもちをありがとうございました
  - ・たくさんの方が来て、盛り上がっていて、とても楽しかったです
  - ・来年もよろしく願い致します
  - ・またやってほしいです
  - ・今後も継続して欲しい
  - ・若い人が多くて驚いた 若いパワーがあると楽しい
  - ・おもちつきや昔遊びなど普段できない体験ができたので、よかったです
  - ・ししまいも出ていて、いい雰囲気でした
  - ・「つきたて」を知る良い機会
  - ・外国から来た友人が、とても興味を持って、見ていました 貴重な体験でした
  - ・とても良いイベントだと思います 一点だけ交通面が気になりました
- とはいえ、様々な面でこちらの場所がベストなのだろうと思い拝見いたしました
- ・元気があって良い
  - ・今後がんばって下さい
  - ・①おもちの皿を一時的に置ける机があるとよい 地面に置くのがためられる

- ② ウィルス対策用のアルコールが使いやすい所に設置して欲しい
- ③ 何か飲みものの出店があってもよい
  - ・告知が気付きにくいので、分かりやすくしてほしいです
  - ・ししまいがこわかった(子ども)
  - ・学生さんが子どもたちに優しく接してくれ、子どもたちも楽しく過ごせました
  - ・気軽に足を止められる雰囲気が良かった 若い人たちの活気にあふれていた
  - ・おもちがとても美味しかったです
  - ・まちづくりの可能性を広げると思う
  - ・おいしく頂きました 旅行者にあたたかいもてなしをありがとうございます

## ⑤ 催事（オルガンコンサート）の実践

電子オルガンの主流化により、絶滅危惧種になりつつある足踏みオルガン。この意味でその音色は貴重な文化資源であり、日本の学校教育の歴史を伝える、意義深い音色でもある。こうした文化資源の価値を幅広く発信し、番組小学校 150 周年と ICOM 京都大会開催を記念するために、京都市学校歴史博物館では足踏みオルガンのコンサートを開催した。

### 【実施概要】

2019年9月1日（日）14:00～16:00

京都市学校歴史博物館 2F 講堂

演奏者：大森 幹子 氏（日本リードオルガン協会会員）

文屋 知明 氏（日本リードオルガン協会会員）

鈴木 開 氏（日本リードオルガン協会会員）

須田 珠生 氏（声楽家）

解説者：和崎 光太郎 氏（浜松学院大学短期大学部・京都市学校歴史博物館顧問）

参加人数：216名

### 【実施報告】

こちらの事業も筆記の機会、及び場所の関係からアンケートをとらなかったが、当館の企画した足踏みオルガンの魅力発信は、その参加人数の数が示すように、確実に達成できたと考えている。また、今回は ICOM の関係で英訳のコンサートプログラムも作成し、日本の文化資源としてオルガンの価値を発信していく用意を、より周到に整えることができたといえる。



コンサートの模様①



コンサートの模様②

- (2) 近代建築ウィーク 2019 (地域の近代建築群の保全・継承・活用ネットワークの取り組み)  
①近代建築シンポジウムの実施

## シンポジウム【三条通の近代洋風建築群-建築・まち・ひとを繋ぐ-】

### 【総括】

本シンポジウムは、今年度が第6回となる「博学社連携シンポジウム」の枠組みに位置付けられ、近代建築をテーマとするのは今年度で3回目となる。第4回の【三条通の近代洋風建築群-その魅力に迫る-】では、三条通にある近代建築の価値を再認識するとともに、所有者・管理者から近代建築への思いと保全に関する課題を聞いた。第5回はサブタイトルを【-建築をまちに開く-】とし、建築をオープンにする取組みについて、国内、海外の先進事例から、三条通での取組を展望した。

今年度は、サブタイトルを【-建築・まち・ひとを繋ぐ-】とし、建築を含めたまちの魅力を掘り起こし、それを市民に伝える活動を行い、担い手育成にも取組む先進事例を端緒に、現在の三条通において、建築・まち・ひとを『繋ぐ』とはどういうことなのかを議論し、それぞれの役割とその可能性を探った。

### □コーディネーター

笠原 一人 氏 (京都工芸繊維大学助教)

### パネリスト

和田 菜穂子 氏 (一般社団法人東京建築アクセスポイント代表理事)

以倉 敬之 氏 (まいまい京都 代表)

村野 正景 (京都文化博物館学芸員)

西村 祐一 (京の三条まちづくり協議会事務局長)

□日時：9月29日

□会場：京都文化博物館別館ホール

(2) 近代建築ウィーク 2019 (地域の近代建築群の保全・継承・活用ネットワークの取り組み)

①近代建築シンポジウムの実施

## シンポジウム【三条通の近代洋風建築群-建築・まち・ひとを繋ぐ-】

### 【総括】

本シンポジウムは、今年度が第6回となる「博学社連携シンポジウム」の枠組みに位置付けられ、近代建築をテーマとするのは今年度で3回目となる。第4回の【三条通の近代洋風建築群-その魅力に迫る-】では、三条通にある近代建築の価値を再認識するとともに、所有者・管理者から近代建築への思いと保全に関する課題を聞いた。第5回はサブタイトルを【-建築をまちに開く-】とし、建築をオープンにする取組みについて、国内、海外の先進事例から、三条通での取組を展望した。

今年度は、サブタイトルを【-建築・まち・ひとを繋ぐ-】とし、建築を含めたまちの魅力を掘り起こし、それを市民に伝える活動を行い、担い手育成にも取組む先進事例を端緒に、現在の三条通において、建築・まち・ひとを『繋ぐ』とはどういうことなのかを議論し、それぞれの役割とその可能性を探った。

### □コーディネーター

笠原 一人 氏 (京都工芸繊維大学助教)

### パネリスト

和田 菜穂子 氏 (一般社団法人東京建築アクセスポイント代表理事)

以倉 敬之 氏 (まいまい京都 代表)

村野 正景 (京都文化博物館学芸員)

西村 祐一 (京の三条まちづくり協議会事務局長)

□日時：9月29日

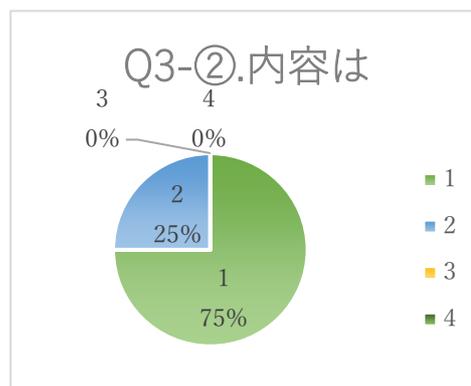
□会場：京都文化博物館別館ホール

### 上のようにお答えになった理由をご記入ください

- ・人とのつながりを大切にされた専門的なツアーの紹介を楽しむことができました。
- ・東京での専門家の方々の取り組みもよく分かった。
- ・ガイドツアーについて、いろいろ面白かった。
- ・建物の話が聞きたくて来たのですが、いろんな立場の人の意見を聞くことができたのが意外と良かった。
- ・まいまいの存在を知れて良かったです。ツアー申し込みたいと考えます。
- ・「まち歩き」「建築」の具体例が分かりやすかったです。
- ・東京アクセスポイントの存在、活動内容を知ったこと。
- ・まいまい京都の取り組みなど知ったことが良かった。
- ・後半から出席した。
- ・ずっと気になっていた東京建築アクセスポイントの活動ですが、HPとは違った代表の説明で、時間が合えば参加したいと思います。
- ・事業内容の説明が中心で少し大変だった。
- ・実際に活動されている方の生の声を聞いた。
- ・企画の背景が良く分かった。

### ②後半のパネルディスカッションはいかがでしたか

- |             |    |
|-------------|----|
| 1. 非常に良かった： | 18 |
| 2. 良かった：    | 6  |
| 3. 普通：      | 0  |
| 4. 期待以下だった： | 0  |



### 上のようにお答えになった理由をご記入ください

- ・午前中はまいまいツアーに参加してから来ました。ガイドさんの話で共鳴することができてとても楽しかったです。これからのご発展をお祈りします。アプリ（まいまいポケット）、アンドロイド版も作って下さい。お願いします。
- ・学芸員さんの話、まちづくりの方の話が新鮮でした。ツアー系の2人もなるほどなコメントで面白かったです。
- ・「つなぐ」という観点から多岐に話題が広がり、大変興味深かった。（博物館と地域とのつながりも含めて）
- ・「文化の消費」という言葉に考えさせられた。
- ・三条通そして建築ファン、市民と共働り良くしていきたいという意気込みが伝わりました。
- ・地域を巡視する授業をやったことのある者として、この議論は興味深いものでした。
- ・司会者がパネリストに話を振るのではなく、パネリスト同士がやり取りする場面が多かった。
- ・助成金に頼らないまいまい京都の取り組み、予定不調和なところが知れた。
- ・以倉氏の提案、企画力に感心した。まいまい京都の魅力を大いに感じた。文博の資料等が外に開かれる力を感じ、期待感が膨らむ。
- ・各人のつながりに期待できる。

- 三条通の西村さんや村野さんの話を聞く機会があり良かったです。
- 継続してやって来られていることが素晴らしいと思います。
- 建築を通してひととまちがつながっていくために、いろいろな試みをされていることが良くわかり、大変意義のあるパネルディスカッションでした。ありがとうございました。
- 司会の運びが時々少し不明瞭だった。
- 興味深い話が聞けた。

#### 【4】その他今回の企画、今後への期待などありましたら、ご自由にお書き下さい。

- 文博館長の考えなどを聞いて良かった。
- 1200年の歴史の京都がレトロ建築で街の魅力を再発見、新たな文化創造になるというのが未来を感じました。
- ツアーをする側の視線と、ツアーを受ける側の「心づもり」はやっぱり少しずれるのではないのでしょうか。だからガイド役の力量というか、知識、態度、真険性が問われると思います。「ダーク・ツーリズム」の問題も含めてさらに考えていきたいです。島田雄介
- 三条通の昼夜のまち歩き、三条通での飲み会
- 京都が誇れる小学校、路面電車の歴史等の建築物、その時代の地図をテーマに。
- 益々に応援しています！
- OPENしなけんは、気になっていて春には参加できなかったのですが、行きたいと思うところは多くあります。基本、関西ですので、まいまいツアーは良く参加させていただいています。また三条通がより良い方向になっていくのを期待しています。
- 建物以外にテーマを広げて企画してほしい。

**【所感】**

まちの人のパーソナリティ、そのつながりから生まれる新しい側面の価値を可視化すること、その活用法、人材の発掘と育成、地域まちづくりにおける各組織の連携の在り方等について、三条通のまちづくりにおいても参考となるアイデアが多く、今後の展開が期待できる。



## ②近代建築ガイドツアー・スタンプラリーの実施

### ②-1. 近代建築ツアー『三条の近代洋風建築見て歩き』

#### 【総括】

京都府建築士会の専門家による、三条通の近代洋風建築の魅力を一般に伝えるツアーを開催した。会場にて事前講義として、京の三条まちづくり協議会よりその活動及び三条通の歴史について、建築士より西洋建築の歴史、三条通の建築の設計者像、その楽しみ方等が伝えられた上で、ツアーに出発した。

ツアーは2班に分かれ、それぞれに建築士会メンバーがガイド役として付き、昔の三条通の写真等とともに、建築及びまちづくり活動にかかわる景観の形成等について解説された。三条通の近代洋風建築は、町家や瀟洒な現代建築とともにお互いが関係しあって、その特徴的な景観が形成されていることなどが伝えられた。また各建築の様式の特徴などとともに、ディテールを見る視点なども伝えられた。

SACRAビル、京王ビル、京都文化博物館、中京郵便局では、所有者・管理者の協力の元、内部を見学することができた。SACRAビルではオーナー会社の担当者より、建築の歴史と特徴が解説され、対になった対照的な意匠を施された銀行当時からある木製の柱などを見学することができた。今年事務所ビルからホテルとしてリノベーションされた京王ビルでは、辰野金吾による近代建築部分にあるジュニアスイートルームや塔屋の屋根が間近に見えるラウンジスペースなどを見学することができた。

これらは、日常のまちづくり活動による関係づくりから、近代洋風建築の所有者・管理者の理解と共感が得られてきているという背景により成立している。参加者のアンケート結果からも、充実したツアーの内容におおむね満足していることがわかる。このような地道な取組が、一般の近代建築への理解と社会的な保全意識の醸成につながることを期待される。

□案内：(一社)京都府建築士会まちづくり委員会メンバー及び近代建築所有・管理者

□日時：10月6日 9時30分～12時、13時30分～16時の2回実施

□参加人数：22名(午前)、22名(午後)

□場所：ウイングス京都及び三条通界隈



## ②-2. スマホで三条 まちなみの変遷発見ラリー

### 【総括】

スマートフォン上で、登録された昔のまちなみ写真の撮影位置から現在の状況を重ねて映し、新旧の比較ができるアプリ（メモリーグラフ）を利用したまち巡りラリーを開催した。近代建築 WEEK 期間中一般公開し、アプリのインストールにより誰でも自由に参加できる形とした。各週末には京王ビル前にて特設テントを設置し、取組みを伝えるとともに、アプリの操作法などの支援を行うとともに、2回のツアーも開催した。

<ワークショップツアー>

京王ビルの特設テント前に集合し、アプリのインストールや使用法の解説を行った後、現在部分的に保存されている京王ビルを練習台として、日本生命ビルとして完全な形で存在していた当時の写真の撮影位置に移動し、比較した。その後、三条通を東から西へ、登録した29枚の写真位置にて、その様子を確認した。参加者は、祇園祭の山鉦が三条通を歩いていた様子や、消失してしまった建築、近代建築建設工事の様子などに新しい発見をしていた。最後は京都文化博物館の展示へ移動し、三条通の大正時代のまちなみ模型や、現在の連続立面写真にて、ツアーで見た写真を確認し、当時のまちなみや賑わいに思いを馳せた。

□日時：①9月28日9時30分～12時、②10月5日9時30分～12時13分30分

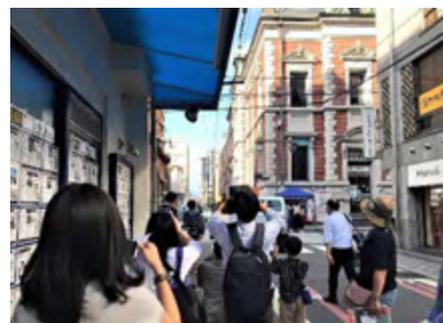
□参加人数：①5名、②7名

□協力：立命館大学アート・リサーチセンター

RIOS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター

NPO 法人京都景観フォーラム

(一社)京都府建築士会まちづくり委員会



## ■参加者アンケート

### 【感想】

- ・最初の講義がとても分かりやすく、まち歩きの参考になりました。ありがとうございました。
- ・昔の写真との比較等、お話が良くわかりました。
- ・身近に接している建築の詳細を知ることができ、大変良かった。
- ・あまり意識して見たことのなかった部分もたくさんあり、またゆっくりお店に入るなどして楽しみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・近代建築は何時間見ても飽きない。SACRA ビルの 1F とホテルの中を見せていただき大変良かったです。特に SACRA ビルの塔屋は感動でした。ありがとうございました。
- ・建物内部も見学ができてありがとうございました。お疲れ様です。お店の前や道で邪魔になっているのが気になりました。
- ・建物の内部を見れたこと、事前にセミナーで知識を得ることができて、とても満足です。長時間ありがとうございました。
- ・西洋建築には興味があったので新しい発見と知識がとても増えました。
- ・楽しく見学させていただき、ありがとうございました。三条の魅力が発見できました。
- ・とても楽しく興味深いツアーでした。どうもありがとうございました。



### 【所感】

一般の人が、いかに近代洋風建築の魅力を理解し、楽しむことができるかを、ガイドツアー及びスマホアプリを用いて試行した。普段見られない場所や、今はないまちなみをアプリ上で見られるという、特別感が参加者に好評だった。今後は有料の事業化も含め検討したい。

(3) 地域の文化資源（染織）の保存・活用・継承ネットワークの取り組み

① 京都の装束文化の魅力再発見プロジェクト

京都の有職にまつわる貴重な文化資源でありながら、積極的に調査されてこなかった京都の法衣装束商の史料を調査。多彩な文様や織組織等から豊かな文化的背景を再発見すると共に、寺院での保管や伝承の実態を把握。研究会では、有識者と過去の展示活用事例を共有し、さらなる調査の必要性和文化資源としての可能性を議論した。

■姫路別院船場本徳寺所蔵の装束類の調査

実施日：2019年10月1日、28日、11月5日

調査対象：江戸時代から大正時代までの打敷、袷袢、法衣などの装束類 103点

方法：保管状態の確認、全図と生地組織を撮影、採寸、調書作成

■法衣装束商・千切屋惣左衛門の染織見本裂及び染織図案の調査・撮影

実施日：2019年9月26日、27日、10月3日、4日、9日、

2020年3月5日、6日

調査対象：江戸時代から大正時代までの打敷、袷袢等の見本裂及び図案 201点

方法：全図と生地組織を撮影、目録作成、墨書部分の翻刻

■法衣装束商・千切屋惣左衛門の古文書類調査

実施日：2019年11月1日、6日、11日、15日、19日、21日、27日、

2020年1月8日、2月5日、19日、3月16日、17日、19日、

23日、24日

調査対象：江戸時代における千切屋惣左衛門の商いに関する書類

方法：目録作成及び翻刻

■研究会

実施日：2020年2月25日（火）14時～16時30分

場所：千總文化研究所

発表：安藤弥（同朋大学仏教文化研究所所長）

「真宗大谷派の歴史と文化～姫路船場別院本徳寺と東本願寺の関係性を中心に」

調査報告：加藤結理子（千總文化研究所所長）

「千切屋惣左衛門が手がけた染織品について」

コメンテーター：山口昭彦（真宗大谷派宗務所東本願寺内事部書記）

モニカ・ベーテ（中世日本研究所所長）

参加者：装束文化研究者、染織研究者、寺院関係者、法衣装束メーカー代表者、染織品製造関係者など27名



## ② 京都の伝統技術を未来へ繋ぐプロジェクト

継承が危ぶまれる伝統技術を現代に生きる形で未来へつなぐことができるのか、最新技術を用いた染織品の原材料（絹糸）の分析と現代のテクノロジーを用いた道具による染織技法の復元研究という2つのテーマで研究者を招聘し協議会を開催した。「材料」と「道具」が技術や技法にどのような影響を及ぼすのかを協議する事で、技術継承の糸口を探った。

### 第1回協議会

「古法と現法による染織原材料の特性の違いについて—生糸の製糸・製織方法を中心に—」

実施日：2020年2月13日 14時～16時

会場：千總文化研究所

講師：早川典子（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター修復材料研究室長）

菊池理予（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部）

参加人数：染織品製造関係者11名



所感：製糸・製織方法により、絹糸の形状、顔料の付着状況、劣化の進行に差異があるという研究成果より、染められた絹布の視覚効果、色の彩度・明度や光沢感にはどのような違いが現れるのか、あるいは絹布の堅牢度と着心地の関係などへ議論が及んだ。生産性を追求し機械化が進んだ絹織物であるが、市場規模・生産量が大きく減少した伝統産業において、素材が持つ特性や後の工程への影響などを見直すことも技術を繋ぐために重要な視点ではないかと思われる。今後、生産現場での活用を視野に入れたさらなる研究が望まれる。

### 第2回協議会

## 「アクリル板とデジタル加工技術を用いた夾纈染の復元研究」

実施日：2020年2月28日 14時～16時

会場：千總文化研究所

講師：ばんばまさえ（神戸芸術工科大学 教授）

参加人数：染織品製造関係者 12名



所感：伝統的な技法においては木材の型を用いる夾纈染をアクリル板で再現した復元研究から、絞り染め特有のにじみが染色工程の中でどのように進行するのか、防染が成功しやすい線の太さなど、道具がもたらす染色効果についての知見を得た。復元製作は、古来の道具の再現に着目してしまいがちだが、現在容易に入手でき加工しやすい道具から、伝統的な道具に用いられている素材の特性や素材同士の組み合わせを分析できる可能性があり、今後のさらなる研究が望まれる。

## 2. 地域と協働した人材育成プログラム

### ① 文化に通じた人材育成事業（小中学生）の開発プログラム

（総括）

「小中学生記者の文化財取材コンクール」では、文化財修理の現場で活躍する会社・職人の団体「文友会」が“伝統の技”を披露する弊社別事業「文化財ドック」を訪れた。日頃目にする歴史的建造物や美術工芸品が過去からどのような技術で維持管理されてきたかを約300名の参加者に周知することができ、非常に有意義な行事となった。

#### 【文化財取材コンクール（7月～11月）】

令和元年7月27日（土）京都市男女共同参画センターウィングス京都にて取材活動  
コンクールテーマ — 京都の“伝統の技”を体験してみよう！！ —

※参加者

・小学校… 16校24名

・中学校… 11校29名

令和元年9月6日（金）応募締め切り

※応募作品数

・記事の部 17点

・写真の部 34点

・はがき新聞の部 21点

令和元年9月25日(水)午後5時～ 京都技術科学センター会議室にて審査会

※入選作品数

・記事の部 入選 8点

・写真の部 入選 7点

・はがき新聞の部 入選 8点

令和元年11月15日(金) 京都新聞特集紙面に入選者及び入選作品掲載

令和元年11月22日(金)午後4時～ 京都新聞文化ホールにて表彰式を開催

※入賞者に賞状・副賞を授与

令和元年11月23日(土・祝) 京都新聞に表彰式についての記事掲載

【文化財取材コンクールについての所感・評価】

文化財保護の次世代を担う小学生・中学生を対象に、取材を通して文化財への関心を深め、愛護の精神を養うことを目的とする。今回は文化財の修理現場で活躍する職人のもとを訪ね、その技術について体験・取材することで、中学生は「記事」及び「写真」、小学生は「はがき新聞」を作成した。主催等関係者による厳正な審査を行い、表彰を行った。

文化財ドックは毎年2回行っているため、参加者からはもっと早くに取材コンクールとして参加したかったとの声が多数聞かれた。通例では講師役数人に生徒・児童が集中して取材することが多かったが、今回はいろいろな職種の職人約40名に対して、参加者それぞれが各自で取材したため、作品内容もこれまでにない幅広いものとなった。

【文化財ドック(7月・1月)】

i 第22回文化財ドック

日時 7月27日(土)午前10時～午後4時

会場 京都市男女共同参画センター ウィングス京都

来場者数 140名

相談件数 2件

ii 第23回文化財ドック

日時 1月25日(土)午前10時～午後4時

会場 京都市市民防災センター

来場者数 147名

相談件数 5件

【文化財ドックについての所感・評価】

指定・未指定文化財所有者・管理者で組織する本協会と、文化財伝統工芸技術者組織「文友会」との共同で相談会を行い、文化財が適切な指導のもとに修理・修復・保全され、健全な形で将来に向けて伝承されるように努めた。伝統工芸を展示し体験出来るコーナー「匠の技展」を行い、文化財や伝統技術を紹介し、文化財保護精神の広い普及啓発に努めた。

展示や体験は小学生にも理解できるよう準備していたため子どもたちは熱中していたが、親をはじめ大人も真剣に取り組んでいたのが印象深い。京都ならではの行事であるため、今後はより多くの参加があるように努め、文化財を未来に伝えていくための技術やその大切さをより一層周知していきたい。



文化財ドック 相談の様子（1月）



文化財ドック 体験の様子（7月）

文化財取材コンクール 取材の様子



文化財取材コンクール 作品制作の様子



文化財取材コンクール 表彰式の様子

## ② 文化に通じた人材育成事業（大学生）の開発プログラム

（総括）

京都橘大学歴史遺産学科考古学コースと協同し、合同企画展「焼き物からよむ平安時代—発掘でみえてきた食器・酒造り・饗宴—」を実施した。学生20名が中心となり、考古学コース教員と資料館員が補助しながら、展示の企画から展示遺物の選定・展示、文章・図面パネルの作成・掲示など、実際の展示作業を行い、終了後の撤収作業までを実施した。

(実施概要)

実施日時 2019年12月10日(火)～2020年1月19日(日)

開催場所 京都市考古資料館1階特別展示室

参加人数 考古学コース教員(中久保辰夫)、学生20名

期間中、毎週日曜日には学生を中心とした展示解説を実施、また、12月21日にはミニ講演会「平安時代の焼き物の魅力—展示の見どころと研究の成果—」、「考古学からみた日本古代の饗宴」、1月13日にはワークショップ「京都で学ぶ学生が考える京都歴史文化施設のつなぎかた」を開催した。

アンケートまとめ(所感、評価)

期間中アンケートを実施、27名の回答があり、展示内容については「とてもよかった」が14、「よかった」が12と高評価であった。感想としては、専門知識がなくてもわかりやすく楽しめる工夫がされていてよかった、平安時代の生活で使っていたさまざまな用具が、その当時の焼き物を通してよくわかった、など概ね好意的なものであった。



2-②-1 展示解説のようす

2-②-2 ミニ講演会

2-②-3 ワークショップ

③ 文化財を未来へつなぐための人材育成事業

(総括)

過去の社会が培ってきた、歴史資料・美術工芸品を後世に伝える高度な技術やこれを支える道具、適切な原材料は時とともに変わりゆき、今や絶えそうなものが多々ある。そこで、歴史資料・美術工芸品を作り出し、支えてきた様々な道具や材料の一端を次世代に紹介し、技術を体感・経験することで、将来の文化財を支える人材を育成すべく、下記の4回のワークショップを企画・実施した。

第1回 和紙を知ろう！紙すきワークショップ

日時：11月10日(日) 13:30～15:30頃

場所：京都文化博物館 別館講義室ほか

対象：小学3年生以上、中学高校生

定員：15人(参加費無料・要申込)

講師：福西正之氏・初美氏(福西和紙本舗)

参加人数：15人

第2回 日本の和紙にふれよう！和綴じ本作りに挑戦

日時：11月17日(日) 13:30～15:00

場 所：京都文化博物館 別館講義室  
対 象：小学3年生以上  
定 員：15人（参加費無料・要申込）  
講 師：一般社団法人 国宝修理装演師連盟  
参加人数：15人

第3回 古代のくみひも、クテ打に挑戦！

日 時：12月14日(土) 13:30~15:30頃  
場 所：京都文化博物館 別館講義室  
対 象：小学3年生以上  
定 員：25人（参加費無料・要申込）  
講 師：多田牧子氏（組紐研究家）  
参加人数：15人

第4回 金工体験ワークショップ！彫金てなあに？

日 時：12月22日(日) 13:30~15:30頃  
場 所：京都文化博物館 別館講義室  
対 象：小学3年生以上  
定 員：15人（参加費無料・要申込）  
講 師：松田聖氏・浩佑氏（飴屋松田）  
参加人数：15人

いずれの回も装演の専門職人を講師に招いて普段知り得ない技術や道具を用いた体験ができたため、好評であった。

④ 文化・観光に通じたプロデュース型人材育成事業（大学連携）

（総括）

大学生とともにリサーチ、取材実践を行い、パイロットメディアの制作を行った。まち歩きから見つける日常の中のを再発見することをテーマにした。また、京都の伏見や宇治にある近代京都の戦争に関わる遺構について、映像作品を手がかりにリサーチ、取材も行い、メディアを作成した。

（実施概要）

オリエンテーリング 2019年10月28日 京都文化博物館サロン  
調査日時 2019年10月28日 京都市 五条烏丸から四条高倉周辺  
取材日時 2019年11月4日 京都市 三条高倉から四条高倉周辺  
取材日時 2019年11月27日 瓜生山（京都市左京区北白川北東）  
取材日時 2019年12月21日 東寺 弘法市  
取材日時 2020年2月27日 京都文化博物館  
取材日時 2020年3月3日 京都市伏見区藤森周辺、宇治市木幡周辺

（所感）

京都の路上を歩きながら、そこに人の営みに根ざしたモノを改めて見出して、感じて、

考えるというプロジェクトを行った。もう一方で、京都の近代の戦争の遺構に着目し、それらを写真とともに紹介した。どちらも、京都における観光のもう一つの側面を掘り起こし、学生にとっても、取材から編集、デザインを実践的に携わることで、文化観光の知識や経験を得ることができた。

### 3. ICOM を見据えた地域グローバル拠点形成事業

#### ① 多言語対応・情報化による国際発信強化

(総括)

ICOM 京都大会の開催による外国人専門家等の来館など通常の年度よりも多い、インバウンドの需要が高まる中、館内展示資料の多言語化を行った。中国語、韓国語、英語による解説パネルの作成し、一部の展示資料には、QR コード、スマートフォンを利用したキャプションの多言語化も実施した。

#### ② 有効な国際発信・観光モデルを検討するフォーラムの開催

ICOM 京都大会 2019 報告会兼ワークショップ

日 時 : 令和 2 年 1 月 13 日 (月・祝) 10:30-16:30

場 所 : 京都文化博物館 3 階フィルムシアター・6 階和室

主 催 : 京都歴史文化施設クラスター実行委員会、ICOM 京都大会 2019 組織委員会、  
ICOM 日本委員会

参加人数 : 93 名

(総括)

2019 年 9 月に開催された ICOM 京都大会では、どうすれば博物館が社会に貢献できるのか、よりよい未来のために博物館は何ができるか、世界の博物館職員や関係者が集まって議論した。そのテーマは、持続可能性や防災・減災、あるいは博物館の新しい定義など多岐にわたった。どれも大変興味深いテーマで、議論も白熱していた。

しかし残念ながら、全てのセッションに参加できた人は少ない。もう一度議論の要点をおさらいしたいという人もいた。そこで本事業の前半では ICOM 京都大会の報告会を開催し、各セッションの要点を共有した。

また後半では、ICOM 京都大会 2019 の振り返りをおこない、さらに今後、日本のミュージアムにどのように還元できるのかを具体的に検討するワークショップを実施した。ICOM に参加しなかった/できなかった学芸員たち/実務者たちにとっても、ICOM の成果がどう具体的に日々のリアルな業務に役立つのかを見出す機会となった。



### ③ICOM 京都大会本会議・国際委員会での活動の国際発信

(ア) ICOM 京都大会オフサイトミーティング (ICOM-CAMOC の開催)

日 時 : 令和元年9月5日(木) 10:00-16:45 (9:30 受付開始)

場 所 : 京都文化博物館別館

参加人数 : 約 100 名

国際博物館会議 (ICOM) の国際委員会の一つである CAMOC (都市博物館会議) のオフサイトミーティングを受け入れ、各種発表を実施した。クラスター構成員の村野正景 (京都文化博物館) がクラスター実行委員会の事業ならびに京都文化博物館、地域組織の事業を発信した。またポスター等を会場内に掲示し、発表以外の内容の事業もあわせて紹介した。



#### (イ) ICOM 京都大会本会議での発信

##### (総括)

これまで国内の学術研究者や海外の方に弊会をアピールする機会はあまりなかった。ICOM 京都大会という機会を捉え、いままで弱かった前記の方々へ弊会の特色ある活動「文化財所有者が立ち上げ、文化財所有者の目線で、文化財の保護について取り組む」を直接対面で周知することができた。

##### (実施概要)

実施日時・内容・参加人数・アンケートまとめ (所感、評価)

第 25 回国際博物館会議 ( I C O M ) 京都大会の会場にて弊会の展示ブースを出展した。世界各国から参加する学識者や研究者に向けて京都の文化財の状況を発信し、且つクラウドファンディングをはじめとした文化財の維持管理についての情報提供及び協力を呼びかけた。

弊会のような性格の団体は希少であると推察されるため、来場者は驚きとともに非常に興味深く展示の見学や説明を受けていた。

出展期間	9月2日(月)～4日(水)
会場	国立京都国際会館 アネックスホール
ブース来場者	250名



#### ④ ICOM 京都大会でのエクスカージョン (フィールドミュージアム化事業)

##### (総括)

安土桃山時代に豊臣秀吉が京の周囲に築いた「御土居」を取り上げ、これを巡るためのガイドマップ「遺跡見て歩きマップ 御土居」の北半と南半をそれぞれ日本語版 4,000 部、英語版 1,000 部を作成し、この北半を実際に歩き、案内する「御土居を見て歩き～洛中洛外のはざまを歩く～」を開催した。

##### (実施概要)

実施日時 2019年10月12日(日)、20日(土) いずれも9時～12時

※実際には10月12日は台風の直撃をうけ中止、20日のみ実施。

参加人数 各日とも15人一組編成で5組75人を定員とし、事前に往復はがきで参加申込をしてもらい、それぞれ申込多数により抽選して参加者を決定した。申込総数は、

10月12日が161名、20日が199名であった。10月20日のみの実施で、参加者は68名。

講師 各班に京都市文化財保護課、(公財)京都市埋蔵文化財研究所、京都市考古資料館職員と京都市考古資料館解説ボランティアが2～3名、先導および交通整理員として引率した。

参加者にはガイドマップ「遺跡見て歩きマップ 御土居」の北半を資料として配布、ゴール地点では同マップ南半を参加賞として進呈した。

アンケートまとめ

57名の回答があった。天気にも恵まれて、実際に御土居跡を解説してもらいながら見て歩くことで、御土居のスケール感を実感することができた。コースも手ごろで御土居を知るのには最適で、解説もわかりやすくよくわかった。など概ね良好な感想で、批判的・否定的な感想は皆無であった。



3-④-1 大宮御土居受付会場



3-④-2 大宮御土居散策状況



3-④-3 史跡御土居公園散策状況